

KaReRe Project

大学内での食事デリバリーサービス

目次

1. 構成要因
2. きっかけ・問題点
3. 私たちが考えた解決法
4. デリバリーサービスがよいのでは？
5. KaReReの提案
6. KaReReの概要
7. アンケート
8. 利用シーン例
9. 使用イメージ図
10. 要求仕様(一部抜粋)
11. 今後の計画

構成要員

担当教員

- 黒田先生: TTA
- 松石さん: TA

開発班

- 藤牧: 統括リーダー、発表
Web開発、資料作成
- 松本: Android開発、資料作成
- 藤原: 班長、
サーバー担当

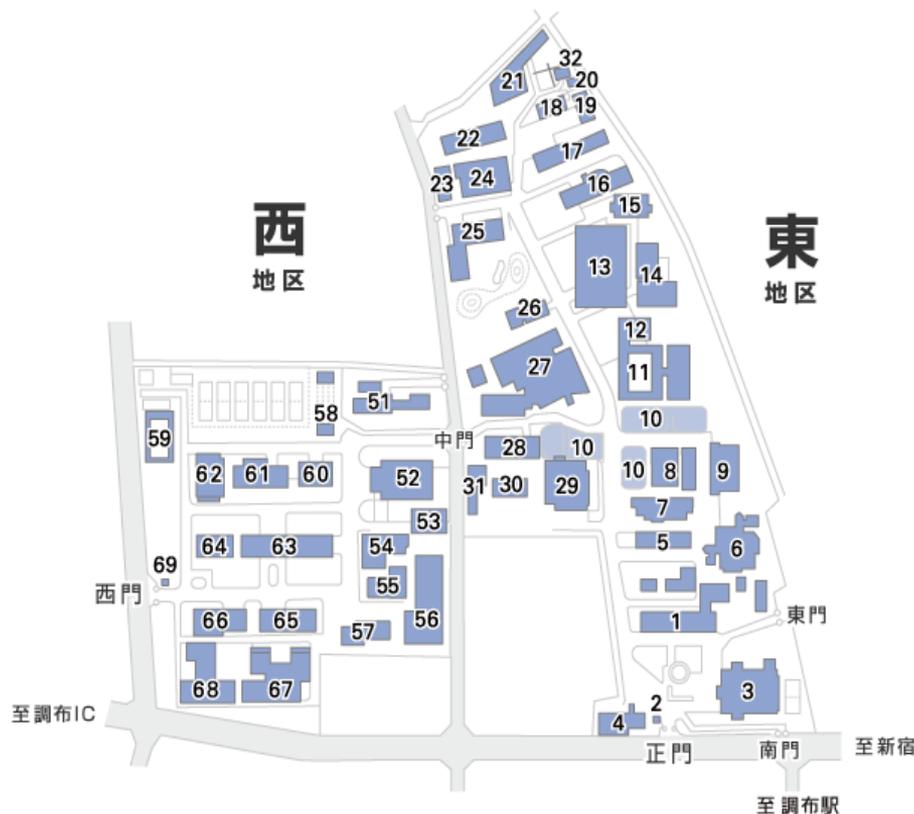
発表班

- 渡辺: 班長、発表、パワポ作成
- 並木: 資料作成
- 関田: 資料作成
- 吉田: 企画
- 稲葉: 発表

きっかけ・問題点

西側に売店がなく学生が食べ物を調達するのが困難。

東側まで来なければならぬのが面倒。



私達が考えた解決法

K-SHOPの跡地(西食堂の横)にコンビニを誘致する

しかし...

- 私たち学生のみだけでは困難
- 経営難になったら責任を取れない
- 人件費などの費用はどこから出すのか？

私達が考えた解決法

西食堂の横にフードサーバー(食品自販機)を設置する

しかし...

- 費用がかかるため、こちらも私たちの力だけで設置するのは困難
- 管理はどうするのか。誰がやるのか。

デリバリーサービスが良いのでは？

弁当.jpのようなデリバリーサービス

いわゆる出前。ピザや寿司の配達もここに含まれる。

しかし...

- 学内の場所(教室や棟など)の詳しい指定ができず、融通が利かない
- 配達料金も含まれるため、高価格
- 配達できる地域が限定されてしまう

デリバリーサービスが良いのでは？

パシリー

『空飛ぶ』が運営していたアプリ。Facebookのアカウントを使ってお互いにお遣いをしあうシステム。

しかし...

- 利用者が増えなかった(流行らなかった)。
- メンテナンス不足で現在は利用不可。

デリバリーサービスが良いのでは？

pacirii

『リブセンス』が運営していたアプリ。手数料50円を支払ってお遣いを頼むことができるシステム。

しかし...

- もともとこのアプリは期間限定の運用であったため、現在は利用不可。
- 配達できる地域が限定されてしまう。

デリバリーサービスが良いのでは？

- コストを抑えたい
- 電通生が学内で利用できるシステムを作りたい
- 配達場所などの指定は、細かく、融通が利くとなお良い
- 学生同士でお互いに届けたり届けられたりするシステムにしたい

提案

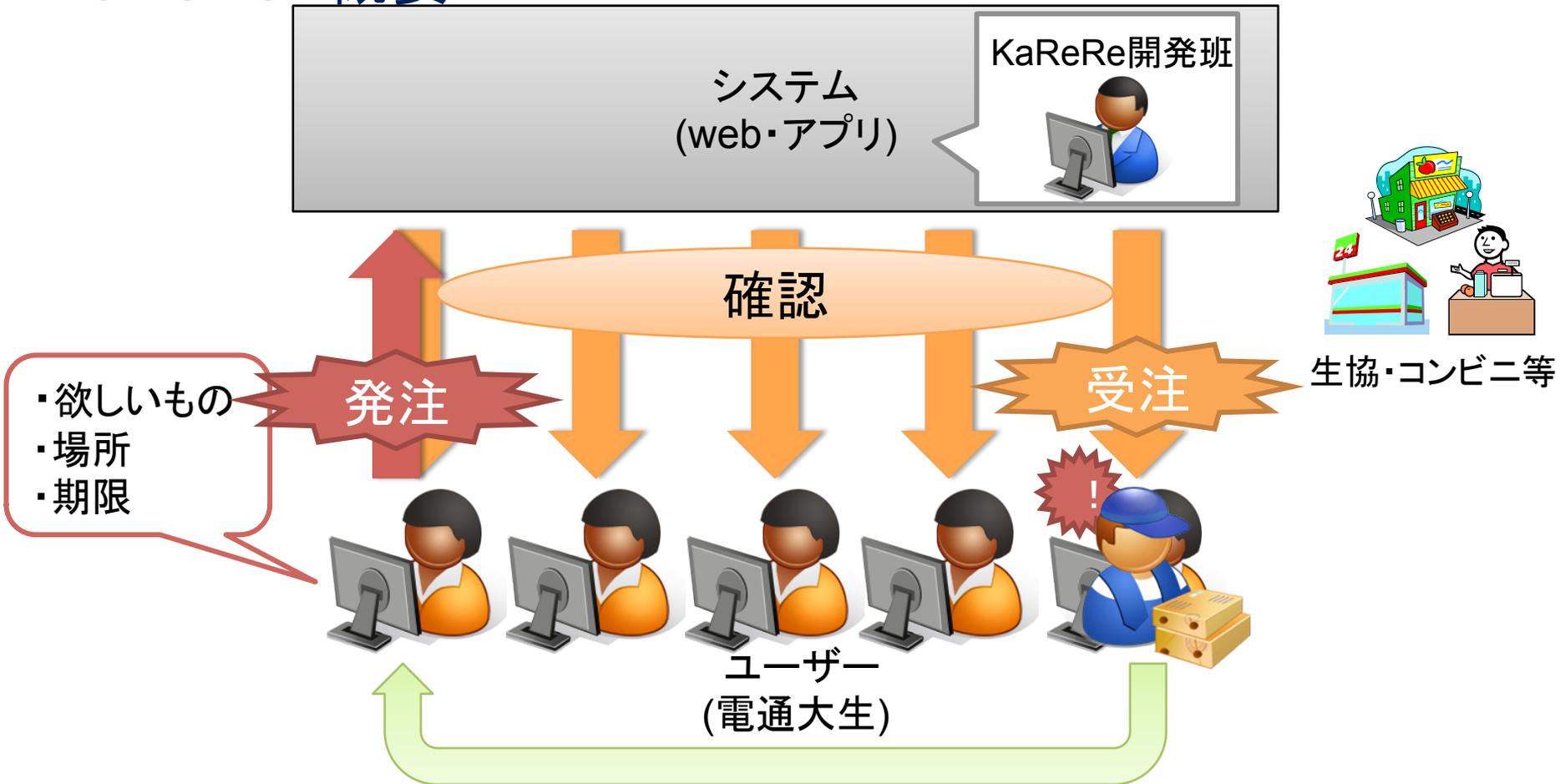
学生同士でお互いにお遣いしあうサービス...

か れ れ
KaReRe

※KaReReとは...

マオリ語で配達人(messenger)という意味

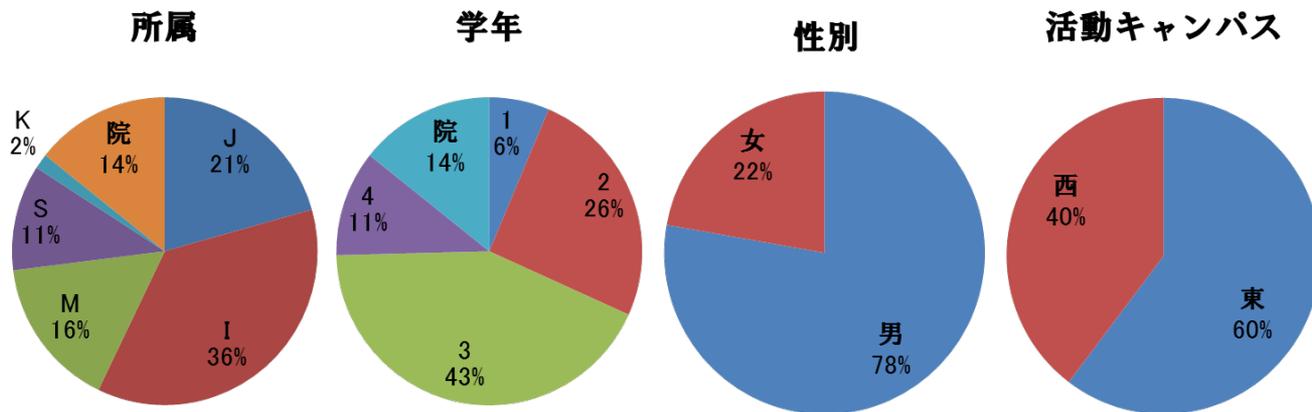
KaReRe 概要



アンケート概要

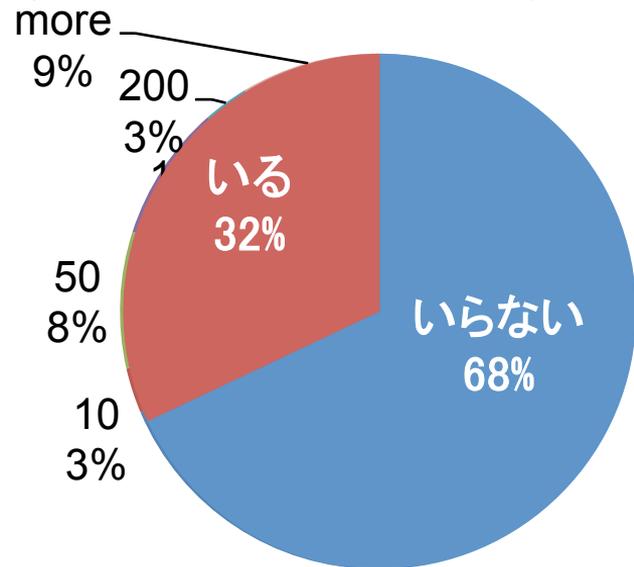
- 1.西地区の人の食事手段の調査
- 2.報酬が必要かどうか検証

Web上で公開し、電通大生63人の回答が得られた。



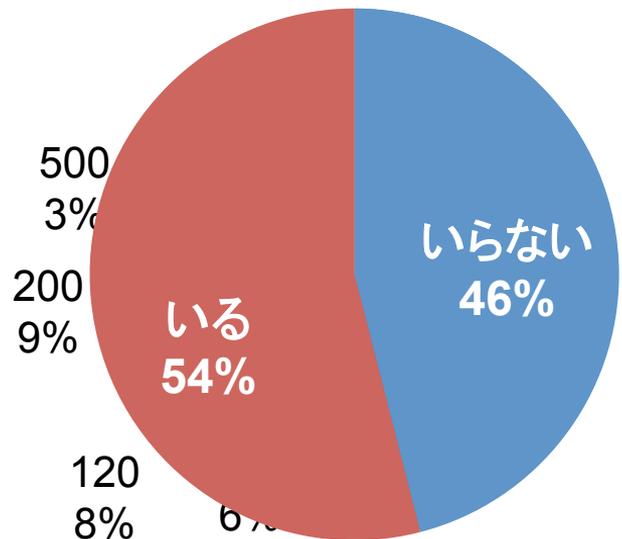
知人に500円程度のお遣いを頼まれたときに 報酬は欲しいか

顔を知っている友達の場合



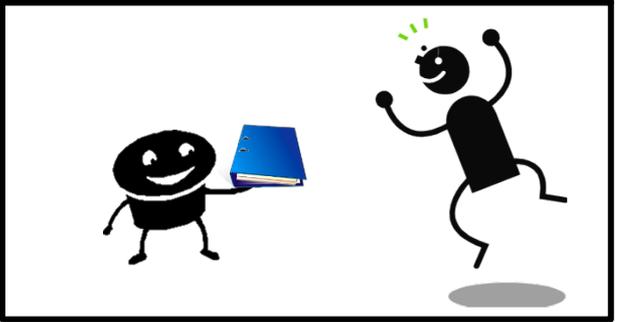
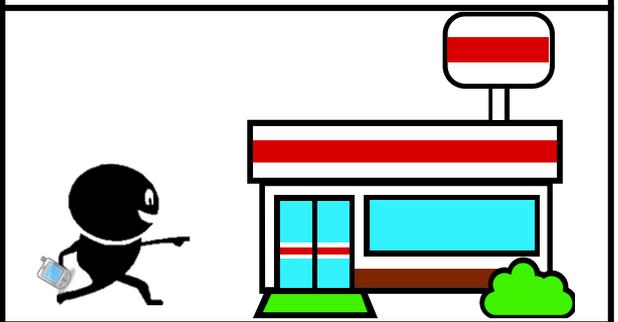
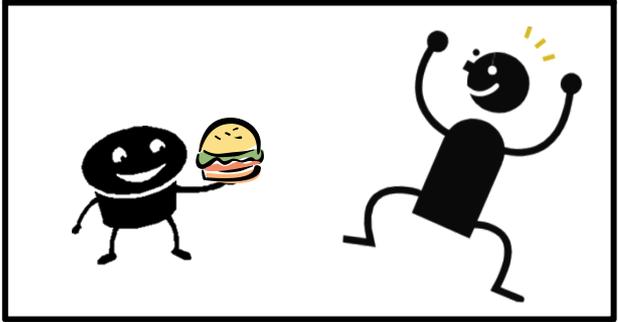
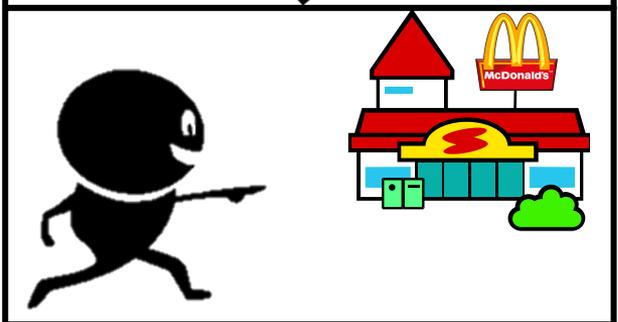
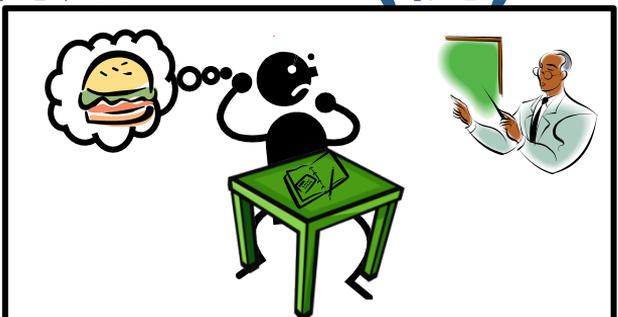
報酬は必要ないと答える人が多い
⇒報酬は知らない。代わりにゲーム感覚でポイント制を導入。

顔を知らないオンライン上での知人の場合



友達とオンライン上だけの知り合いでの差が大きい
⇒発注する相手を制限できるようにする。

利用シーン(例)



お金がかからない

大学内どこでも
届けられる



電通大生同士なので
融通が利く

イメージ図

受注動作

受注確認、
画面をスクロール。
受注ボタンを
押します。

※あくまでイメージです

イメージ図

発注動作

価格・在庫・在庫
情報を選択し、注文
を確認し、注文
が反映され
ます。

※あくまでイメージです

イメージ図

その他

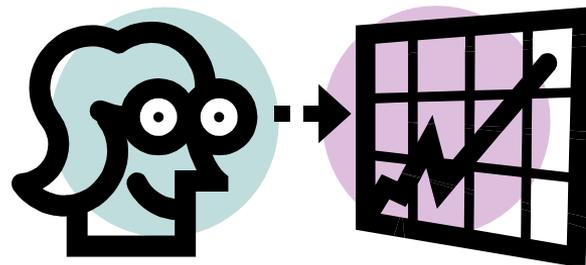


社内の各部署へ
届きやすくして
受付け易く
履歴を表示さ
します。

※あくまでイメージです

アジャイルな計画づくり

1. ユーザーストーリーリストをつくる(≒要求仕様書)
 - リリースを定義する
2. プロジェクトの規模を見積もる
3. 優先順位をつける
4. チームのベロシティを見積もる
5. 期限を仮決めする



要求仕様(一部抜粋)

誰が	何を	なぜ	優先順位
ユーザーは	注文を発注できる(名称/値段/期限/受け取り場所)		1
ユーザーは	Twitter連携できる	電通大にTwitter利用者が多い	2
ユーザーは	注文の公開範囲を限定的に設定できる	相互フォローの人のみ、など	2
システムは	ユーザーに発注する上限件数を設定できる	同じ人が沢山発注できないように	2
受注者は	発注者とチャットのやりとりができる	トラブル防止	3
ユーザーは	受注の報酬としてバッジやポイントを手に入れられる		3

今後の計画

10月：開発環境の設定、開発の勉強

11月：最低限の機能を実装

12月： // 、プレリリース

1月：使い勝手の向上、完成版をリリース

2月：運用、発表準備

3月：最終発表

アジャイル開発とは

アジャイルとは『すばやい』『俊敏な』という意味

チーム内で短期間の開発期間を計画して、その計画をもとにプロジェクトの完了時期を見通せるようにすること

いくつもの短期間で計画を改めて検討するため、リスクが抑えられる。